

# CASBEE<sup>®</sup> さいたま2016年版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ヤオコー岩槻本丸店	階数	地上2F
建設地	さいたま市岩槻区本丸三丁目265番2 他16筆	構造	S造
用途地域	第一種低層住居地域、第二種住居地域、法第22条区域	平均居住人員	1,515 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,355 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年8月 予定	評価の実施日	2024年10月31日
敷地面積	9,376 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	4,176 m <sup>2</sup>	確認日	2024年10月31日
延床面積	7,696 m <sup>2</sup>	確認者	

### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 73%  
③上記+②以外の 73%  
④上記+ 73%

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他		
「豊かで楽しい食生活提案型スーパーマーケット」を目指し、魅力ある店舗づくりを追求し、清潔で快適な環境でゆったりとしたお買い物をお楽しみいただけるようなレイアウト、駐車場の充実、また、自由にお使いいただける「キッチンカフェ (休憩所)」はお客さまとの触れ合いの場を提供する地域コミュニティの場として利用できる地域密着型スーパーマーケットを目指している。	壁面緑化等により調和を図る計画として、環境に配慮した建物をコンセプトとしている。		
<b>Q1 室内環境</b> F☆☆☆☆建材を全面的に採用するなど、空気質環境にも十分配慮している。	<b>Q2 サービス性能</b> 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 緑地を設けることにより、良好な景観を形成している。	
<b>LR1 エネルギー</b> LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ノンフロン断熱材を採用するなど、汚染物質含有材料の使用を回避している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEEさいたま2016年版**  
**(仮称)ヤオコー岩槻本丸店**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>			<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>						<b>1.8</b>	0.15			1.8
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40			
1.2 遮音						<b>1.0</b>	0.40			
1 開口部遮音性能						<b>1.0</b>	1.00			
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音						<b>1.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.7</b>	0.35			2.7
2.1 室温制御						<b>3.3</b>	0.50			
1 室温		冬期22℃夏期26℃				<b>4.0</b>	0.50			
2 外皮性能						<b>2.0</b>	0.17			
3 ゾーン別制御性						<b>3.0</b>	0.33			
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20			
2.3 空調方式						<b>3.0</b>	0.30			
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.0</b>	0.25			3.0
3.1 屋光利用						<b>3.0</b>	0.50			
1 屋光率										
2 方位別開口										
3 屋光利用設備						<b>3.0</b>	1.00			
3.2 グレア対策										
1 屋光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.50			
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.7</b>	0.25			3.7
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.50			
1 化学汚染物質		内装材は規制対象外・F☆☆☆☆を全面的に使用				<b>4.0</b>	1.00			
4.2 換気						<b>3.0</b>	0.30			
1 換気量						<b>3.0</b>	0.50			
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮						<b>3.0</b>	0.50			
4.3 運用管理						<b>4.0</b>	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視						<b>3.0</b>	0.50			
2 喫煙の制御		喫煙室は上階スラブ下まで区画し負圧に保つなど十分な対策を実施				<b>5.0</b>	0.50			
<b>Q2 サービス性能</b>							<b>0.30</b>			2.9
<b>1 機能性</b>						<b>2.4</b>	0.40			2.4
1.1 機能性・使いやすさ						<b>1.0</b>	0.40			
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画						<b>1.0</b>	1.00			
1.2 心理性・快適性						<b>3.3</b>	0.30			
1 広さ感・景観		売場の天井高3.6m以上				<b>5.0</b>	0.33			
2 リフレッシュスペース						<b>2.0</b>	0.33			
3 内装計画						<b>3.0</b>	0.33			
1.3 維持管理						<b>3.5</b>	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		トイレは清掃しやすい内装材、外部の鉄部に亜鉛メッキ処理等				<b>4.0</b>	0.50			
2 維持管理用機能の確保						<b>3.0</b>	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.0</b>	0.30			3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						<b>3.0</b>	0.80			
2 免震・制震・制振性能						<b>3.0</b>	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.2</b>	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						<b>3.0</b>	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						<b>3.0</b>	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水、排水、冷媒管主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用				<b>4.0</b>	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.20			
2.4 信頼性						<b>2.8</b>	0.20			
1 空調・換気設備						<b>3.0</b>	0.20			
2 給排水・衛生設備						<b>2.0</b>	0.20			
3 電気設備						<b>3.0</b>	0.20			
4 機械・配管支持方法						<b>3.0</b>	0.20			
5 通信・情報設備						<b>3.0</b>	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.6</b>	0.30	-	-	<b>3.6</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	平均3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	[壁長さ比率]<0.1	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.2</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラック、配管内配線等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>1.0</b>	0.20	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.71	<b>4.8</b>	0.50	-	-	<b>4.8</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>2.5</b>	0.20	-	-	<b>2.5</b>
集合住宅以外の評価			<b>2.5</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		自動水栓、泡沫水栓、節水コマや節水型便器を採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.4</b>	0.60	-	-	<b>3.4</b>
2.1	材料使用量の削減	ハイベースNEO工法、QLデッキの採用、NEWスーパーFX工法を採用	4.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ビニル床材:休憩室の床	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	内装が乾式工法で分別性・設備との錯綜に配慮	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡断熱材はノンフロン製品を採用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮	<b>4.0</b>	0.33	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>		燃焼機器を使用していない	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.5</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	敷地内に駐輪場を配置(必要台数分)、荷捌き車両スペースを計画等	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	屋外にリサイクルスペースを設置、有価物の回収等	4.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストの過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	